



Before
After

道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校
道徳通信 第3号
令和5年7月14日(金)
発行者 校長 井浦 博史

「日曜日の初耳学」から

1学年職員

先月は、3年生の修学旅行、2年生は校外学習、1年生は自然学校と大きな行事と学校総合体育大会上尾市予選会があり、各会場で熱い戦いが繰り広げられました。そうこうするうちに、1学期もあと1週間程度となりました。

日々慌ただしく過ごす中で、私は日曜日の日課の一つに、22時から放送されている『日曜日の初耳学』を観ています。この番組は、ゲストにそうそうたる俳優人や経営者、デザイナー、僧侶等あらゆる分野の著名人が出演し、インタビュアー林修先生がゲストに「そんなことまで聞いちゃう～」と、ゲストの多面的なことを多角的に質問していることに魅了され、実に面白い。

先日のゲストは、「福山雅治」氏でこれまでの人生で得た気づきを明かしてくれました。福山氏は、長崎から上京し、役者志望ではなかったが19歳で俳優として芸能界入りし、数多くのドラマで主演を務めるスター俳優になりました。その後21歳でアーティストとしてデビューし、今やミュージシャンとしても国民的な人気を集め、俳優としてもシンガーソングライターとして様々な顔をもつ人物。その中で「人が地位を作るのではなく、地位が人を作る」という言葉があるけど、与えられるチャンスがある人が一皮ずつ向けていくと思う。断ることって勇気がいりますが、『断る勇気よりもやってみる勇気を選んできた結果が今』と、求められるものを背伸びしてでも受けてきたからこそ今だと明かしました。

私たちは、日常において、様々な選択肢から常に一つ選び、生活をしています。例えば、学校に行く・行かない、勉強をする・しない等、時には選択内容によっては、真剣に考えれば考えるほど、何を選ぶべきかわからなくなることがあります。そんな時こそ『自分の目指す未来・目標・夢に近づけるか?』という、視点で考えると不安や迷いが少なくなるような…。ぜひ、学習・部活動、行事や趣味など現状に満足することなく、これからの自分のために選択肢を一つずつ選んで、これからも“挑戦”し続けることを願っています。がんばれ、太平中生！

宇宙よりも遠い場所

2学年職員

そこは、宇宙よりも遠い場所——。何かを始めたいと思いながら、中々一歩を踏み出すことのできないまま高校2年生になってしまった少女・玉木マリ（たまき・まり）ことキマリは、とあることをきっかけに南極を目指す少女・小淵沢報瀬（こぶちざわ・しらせ）と出会う。

高校生が南極になんて行けるわけがないと言われても、絶対にあきらめようとしないう報瀬の姿に心を動かされたキマリは、報瀬と共に南極を目指すことを誓うのだが……。

群馬県の館林市をドライブしていたとき、ここが聖地らしいアニメをふと見てみました。ネタバレしないように紹介するのが難しいですが、このお話は女子高生4人が南極に行くお話です。女子高生が南極！？と思いましたが、見終わった後は泣いてしまいました。主人公は特殊能力も無いどこにでもいる学生です。ただし、複雑な母への思い、一歩が踏み出せない、友達がつくれない、高校中退、それぞれ闇を抱えています。このアニメはそれぞれが違う思いから、本当の「友情」「親友」「青春」を南極という『宇宙よりも遠い場所』を目指して築き成長していく物語です。この作品は文部科学省、国立極地研究所などが協力し、海外ではニューヨークタイムズの2018年のベストTVショーにも選ばれています。この夏休みぜひ一度見てみて、何か感じてくれればいいなと思います。

イソップ童話

3学年職員

私には、2歳の娘がいます。毎晩のように、絵本を持ってきて「これ読むのっ」って言うので、寝る前に絵本を読んでいます。その絵本の中で、私が関心を持ったのがイソップ童話の「犬と肉」です。この童話のあらすじは、ある犬が、肉をくわえたまま橋を渡っていました。ふと下を見ると、見知らぬ犬が肉をくわえてこちらを見えています。犬は、その肉が欲しくなり、脅かすために吠えました。すると、くわえていた肉が川に落ちて流されてしまいました。もう一匹の犬は、水面に写った自分自身の姿だったので。

[みなさんは、この童話から何を感じましたか。]

自分に無いものを相手が持っている欲しくて欲しくてたまらない時はありませんか。同じ物を持っていても人が持っているほうがよく見えて、それを欲しくなりませんか。このことから人は、嫉妬やねたみを持つそうです。

「あの人は、こうだ。この人もこうだ。」

人に振り回され、自分を失い、愚痴ばかり言ってしまう人になるそうです。

この童話から仲間や相手にとらわれずに、自信を持って自分を磨くことが、いかに大切なことかを考えさせられました。

**自分ほどだましやすい人はいない。
自分ほど言い訳の聞く相手はいない。**

私は、自分と戦い、自分が納得のできる取り組みをして、自分の首に、自分の手で金メダルをかける人生を心掛けていきたいと思いました。



「種をまこう！自分の畑を作ろう！」

にじいろ学級担当

みなさん悩みはありますか？ある心理学で「すべての悩みは人間関係の悩みである」「悩みの原因は自分の劣等感（おとっていると感じる）だ」という考えがあります。人と関わる社会（学校）の中で、「人と比べて自分は～だ」、「なんで自分は～なんだろう」なんて思い悩んだ人、思い悩んで先に進めない人もいます。

にじいろ学級では作業の時間に畑作りに一生懸命取り組んでいます。私は「学校生活は自分の畑づくり」だと思います。その中で人の畑を見て「おいしそうなイチゴがいっぱいになっている」とか、「自分の畑はどうして～なんだ」なんて思う必要はまったくないと思っています。では自分らしい畑とはどんな畑でしょうか？

私は自分が「好きだ」、「良いと感じる」、「正しいと思う」、「大切にしたい」、「がんばりたい」、「チャレンジしたい」と思うことを種とし自分の

畑にまくこと、大事に育てることが大切だと思います。「やろう！」と自分で決めてまいた種がすべての始まりだと思います。まかない種は芽を出しません。「自分の中にある種をまいて大事に育てること。」このことからしかスタートしません。人と比較していても何も変わりません。変えられるのは自分の畑だけです。

学校生活や道徳の中には色々な種が落ちていると思います。自分が「いいな」「こうじゃないか」と思った良い種を選び取り、自分の畑にまいてください。まいた種が育ち、みなさんの考え、行動力、価値観になり、魅力的な畑になるのではないのでしょうか。そうすれば人と比較することには意味がないと思える。そして自分だけにしか育てられない、おいしい野菜がたくさん実る自分の人生を作ってください。「明日に種をまこう！！」

